

北部普及だより

江戸時代から続く「服部越瓜」のフランドアッフ

なにわの伝統野菜「服部越瓜（はっとりしろり）」は、従来から粕漬に加工され、高槻の特産品として江戸時代から今日まで服部地区の農家で受け継がれています。しかし、生産者の高齢化や粕漬需要の低迷で、栽培面積は減少傾向でした。農の普及課では平成 20 年から飲食店での使用等商工業者と連携を図り需要拡大に向け取り組んできました。その結果、市内の飲食店で服部越瓜の料理が提供されるようになりました。

現在、地域の農家で作る「服部白瓜部会」の 50 歳から 90 歳代の 13 人が約 17 トンの服部越瓜を生産しており、栽培面積も徐々に増えてきています。

服部越瓜は、7 月中旬から 8 月上旬に収穫して 8 割が粕漬けとして使われます。長さが 30 cm を超えたもので、果実は淡緑白色で淡く白いしまがあるのが特徴です。



▲服部越瓜の品評会

7 月 24 日（金）に開催された品評会では、大きさや外観のそろいの他、果実を縦に切って粕漬け素材としての品質などを審査しました。入賞者からは「今年は、瓜が大きくなる時期に雨が多かったため、肉質が柔らかくなり、粕漬けに向く品質のものをそろえるのが難しかった。」などの声が聞かれました。



▲伝統の味
服部越瓜の粕漬け

（食べ頃は、10 月中旬～）



9 月下旬には、高槻市内の百貨店で高槻市内の特産物を使った漬物や寿司、ケーキなどを販売する「高槻ご当地味めぐり」が行われる予定です。この催しは、服部越瓜などの需要拡大に協力した市内の飲食店などと連携したものです。

農の普及課では、今後とも関係機関とともに、服部越瓜の生産・販売体制等を支援していきます。

生産技術**鳥獣被害対策の基本 ～住民の安全も確実に～**

「獣害対策に特効薬なし」とも言われますが、みなさんが現在実施している対策方法をもう一度見直し、被害軽減につなげましょう。

また、7月には静岡県で自作電気柵での死亡事故が発生しました。電気柵を設置されている方は、安全対策のための点検も実施して下さい。

獣害対策3つの目標

- ① 野生動物の餌付けになる行為はしないこと。
- ② 野生動物が農地に近づきにくくすること。
- ③ 人里は怖いところであると学習させること。

**○獣害対策のポイント**

電気柵 フェンス	電気柵の線の高さや段数は防除する動物の種類によって異なります。動物の鼻などが接触するよう適正に設置します。ワイヤーメッシュ等のフェンスを設置する場合は、山沿いでは地形（起伏、傾斜など）に沿って丁寧に設置します。動物がくぐり抜けることができる凹みがあれば、確認・補強しておきます。柵の内外に管理道を整備しておき、定期的にごまめに柵の維持補修を行って下さい。
箱わなによる 捕獲	箱わな等を設置する場合は、専門家等のアドバイスを受け、効果的に設置することに努力をしましょう。 また、集落内での発見情報は、記録を付け集落内で共有するようにして、効果的な捕獲に努め、個体数を減らしましょう。
エサを減らす （無意識の餌付けをしない）	放任果樹や収穫残さ等は野生動物から見れば立派な「エサ」です。エサをほ場に残さず、こまめにほ場外に出すことを徹底します。
集落環境作り （緩衝帯作り）	野生動物が心理的にほ場に侵入しにくくするために、里山と集落の間の「隠れ場所」をなくしましょう。ほ場内外で草刈りを励行し「緩衝帯」を設置し、山裾の森林や竹やぶの手入れを行います。これらの方法は非常に労力がかかりますので、集落で話し合い効果的に実施しましょう。

<参考>大阪府HP：野生鳥獣に関すること

<http://www.pref.osaka.lg.jp/doubutu/yaseidoubutu/index.html>

<参考>大阪府HP：電気柵施設における安全確保について

<http://www.pref.osaka.lg.jp/nosei/seisyansyasapo-to/tyoujuutaisaku.html>

お知らせ

☆2名の新しい「農の匠」が認定されました！

「農の匠」は、優れた農業経営を行っていることはもちろん、農業の後継者の育成に積極的で、地域農業のリーダーとして活躍されている農業者を大阪府知事が認定する制度です。

今年度、北部から新たに豊能町の東浦 満博氏（経営作目：水稲、トマト）と能勢町の本原 富生氏（経営作目：水稲、キャベツ）の2名の方が認定されました。今後とも大阪農業の発展のためによりしくお願いします。

☆おつかれさまでした

茨木市の富村貫氏は、平成 15 年度に大阪府「農の匠」に認定され、地域農業に貢献してこられました。今年度、退任にあたり7月7日に知事からの感謝状が贈呈されました。